

◆ 今週のコメント

- レジオネラ症(肺炎型)の報告が、1例(男性、40歳代)あり、症状は発熱・下痢・意識障害・肺炎です。推定感染地域は国内で、推定感染経路は水系感染です。
レジオネラ肺炎は、乳幼児や高齢者、病人など抵抗力が低下している人や、健康人でも疲労などで体力が落ちている人が発病しやすいといわれています。レジオネラ症は、レジオネラ属菌に汚染された目に見えないほど細かい水滴(エアロゾル)を吸い込むことで感染します。エアロゾルが発生しやすいジャグジーなどでは、循環式浴槽水を適切に衛生管理することが必要です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(男性、80歳代)あり、症状は発熱・咳・菌血症です。推定感染地域は国内で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染です。本年は第26週までに26例の届出があります。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症(EHEC)の報告が2例(男女ともに20歳代)あり、年間累積報告数は8例となりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 8例】
- 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 7例】
- 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 26例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

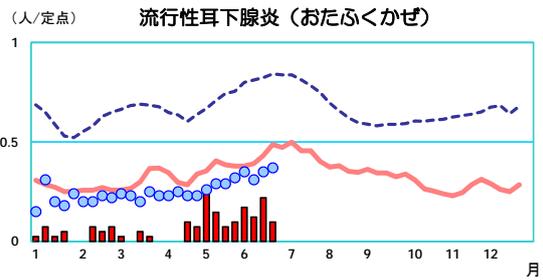
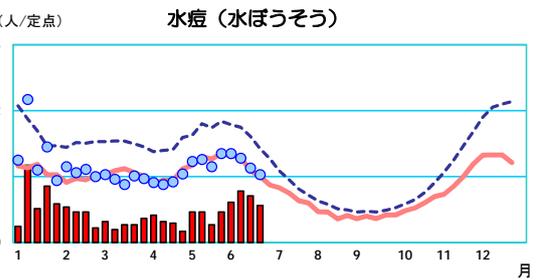
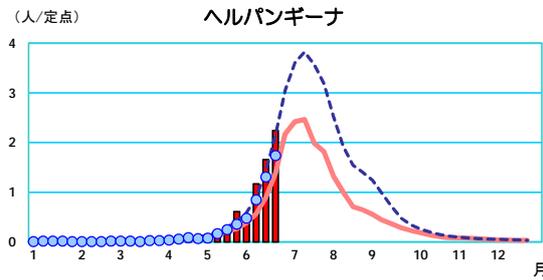
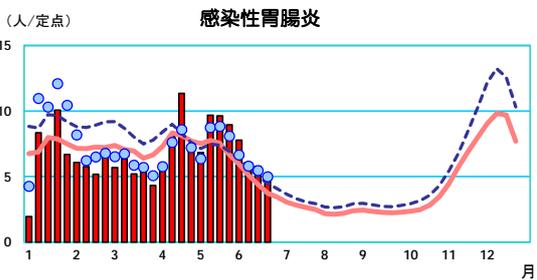
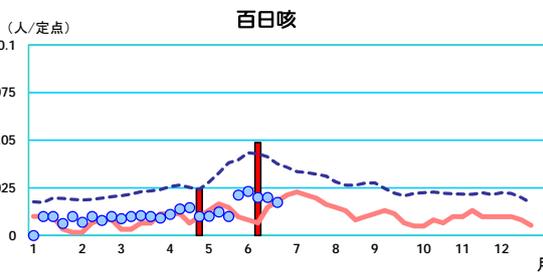
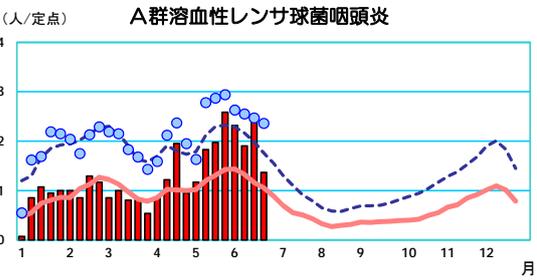
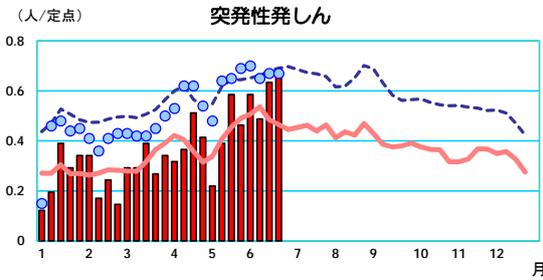
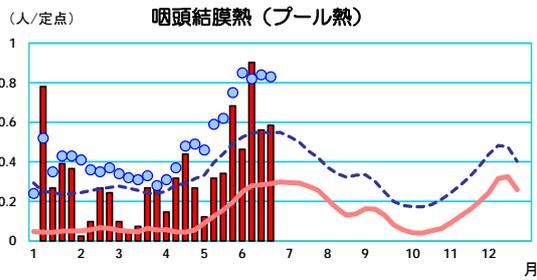
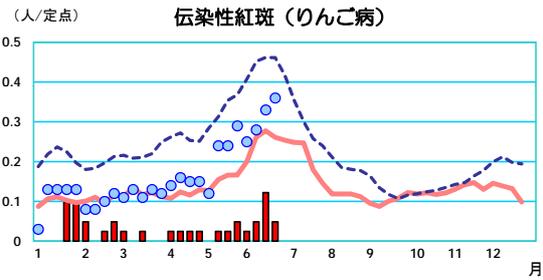
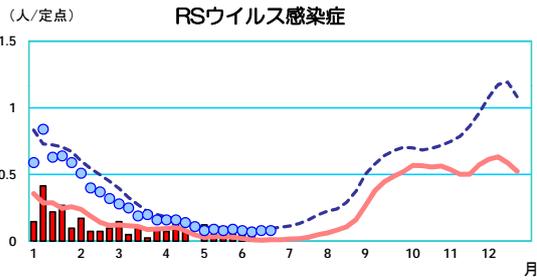
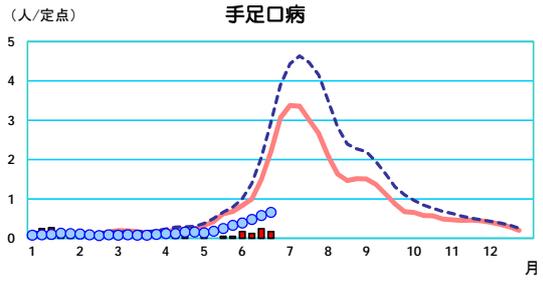
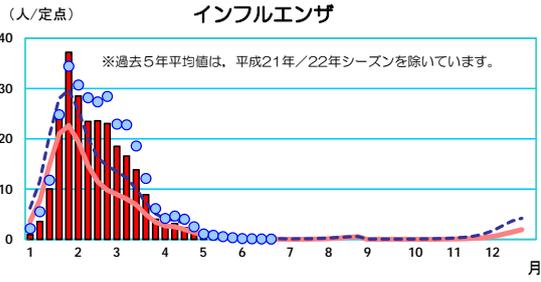
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.88	200
	② ヘルパンギーナ	2.24	92
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.37	56
	④ 突発性発しん	0.68	28
	⑤ 咽頭結膜熱	0.59	24
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

(注) 京都市のデータは、平成26年7月3日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成26年）



第26週(6月23日～6月29日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症(EHEC)の報告が2例(男女ともに20歳代)あり、年間累積報告数は8例となりました。EHECは、激しい腹痛、血性下痢を特徴とする腸管感染症です。そのなかでもO157による感染例は、他の血清型と比べて一般的に症状が重く、乳幼児や高齢者では発症すると溶血性尿毒症症候群(HUS)などの合併症を起こすことがあります。京都市では、過去5年間で234例(平成21年 93例、平成22年 34例、平成23年 34例、平成24年 46例、平成25年 46例)の届出がありました。EHECのO血清型は、O157 195例、O26 15例、O145 10例の順となり、O157とO26が約9割を占めています。

推定感染経路については、飲食物を介する経口感染がほとんどで、菌に汚染された飲食物を摂取するか、患者の糞便等で汚染されたものを口にするのが原因となります。牛肉の生食用食肉の規格基準改正や生食用牛レバーの販売禁止の規制により、生肉・生レバーの喫食が原因と推定されるO157感染事例は平成23年以降減少しました。しかし、O157は感染力が強いため、人から人への経路で感染が拡大しやすく、家族内での感染事例や保育所等での集団発生に発展する事例があり注意が必要です。

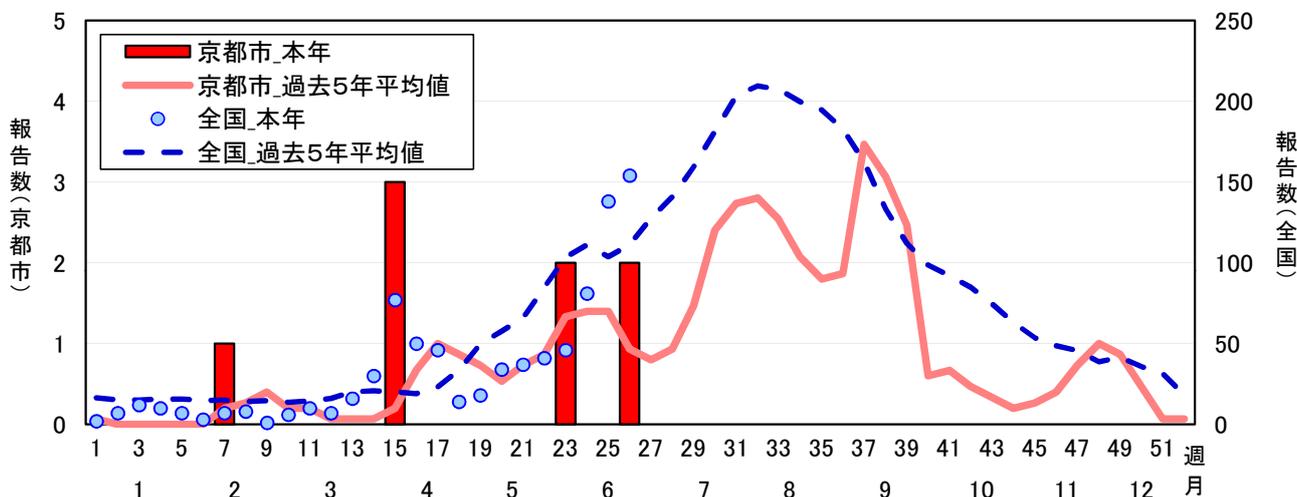
昨年6月以降、全国において保育所での集団発生が多数発生しており、排便後・食事前の手洗いの励行、汚物の適切な処理など、人から人への二次感染を予防することが重要となります。

医療機関におかれましては、EHECを診断された場合には速やかに所轄の保健センターに届出てください。また、EHEC報告後にHUSの発症が認められた場合は、追加報告をお願い致します。

○京都市保健衛生推進室保健医療課のホームページ「医師の届出基準、届出の様式」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000043726.html>

京都市及び全国の報告数の推移



京都市における診断年別 型別報告数

診断年	合計	O26	O86	O91	O103	O111	O121	O145	O157	O165	その他
平成21年	93	8		1		3	1	1	79		
平成22年	34	1			1	2			30		
平成23年	34		1			1		1	30		HUS患者で型別不明が1例
平成24年	27							1	23	1	HUS患者で型別不明が2例
平成25年	46	6						7	33		
平成26年第26週まで	8	3							5		

京都市の報告数の推移

